



Mon Nara



Numéro267 Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会 JAN.—FEB. 2015 1—2月合併号

2015 年度総会開催

2月11日（水曜日・祝）の14時から、「菜宴」（奈良市小西町）にて奈良日仏協会の2015年度総会が開かれました。会長挨拶に始まり、出席者22名（のちに26名）、委任状38名で総会成立を確認。三野会長の議長に選出し議事が進められ、以下の議案が原案通り承認されました。1) 2014年度活動報告、2) 2014年度決算報告・会計監査報告、3) 役員選出、4) 2015年度活動計画、5) 2015年度予算。

2014年度の決算は費目によって出入りがありましたが、全体としては予算に対し収入約3万円減、支出約9万円減と健全で、主として協会創立20周年記念行事の出費のため、繰越残高が約20万円減少し約130万円となりました。決算は監査報告と合わせて承認されました。

役員人事では、樋口理事が退任し新たに高島眞貴子さんの理事就任が承認されました。また、濱理事の事務局長退任にともない浅井理事が新事務局長に、井田理事が会計担当にそれぞれ会長より選任されました。その結果、2015年度の役員は以下の通りです。会長：三野博司、副会長：ジャメ・オリヴィエ、野島正興、事務局長：浅井直子、会計理事：井田真弓、理事：濱 恵介、仲井秀昭、中浦東洋司、南城 守、藤村久美子、中辻純子、高島眞貴子、監事：三木正義。

新年度の活動計画の新機軸としては、フランス・アラカルトの運営規則が制定され理事以外の一般会員も主催できること、フランス語ガイドクラブの復活する目処が立ち予算も組まれたこと、などが盛り込まれています。予算については、長年続いた残高減少傾向に終止符を打ち、収入と支出がほぼ釣り合う形となり、以下の討論を踏まえ承認されました。

予算に関する議論は、以下の2点です。1) 会員数が増えているのに会費収入が増えていない理由が問われ、家族会員の分は個人・法人会員ほど収入増につながらないとの説明がありました。2)



「収入を確保するには文化活動でもっと広報を活発化させる必要がある」という

意見に対し、公共・民間団体と連携し協会の存在をPRすべき、大規模なイベントを開催しても入会につながりにくく日頃の活動と勧誘が大事、などの意見が出され、積極策と地道な努力の両方が必要との結論になりました。なお、前年度決算と今年度の予算の詳細を、別紙（折込）で試料を配布しますので、ご参照ください。（事務局）

《三野会長新年度あいさつ》

2014年は会員のみなさまのご尽力ご協力をもちまして創立20周年記念事業を大成功裡に終えることができました。本年2015年には大きな企画は予定されていませんが、運営体制をさらに整備して、堅実かつ地道な活動を続けてまいりたいと思っております。継続的な活動としては、Mon Naraの編集発行とフランス・アラカルトの企画運営の二つが柱となります。

文化交流活動を目指す私たちにとっても、本年1月初め以降のフランスにおける表現の自由とテロの問題に対しては無関心ではできません。共和国の伝統であるLaïcitéがあらためて議論になっております。政治、宗教、民族の問題がからみあい、さらにはグローバル化の時代にあつていっそう複雑な様相を呈しているように見えますが、フランスらしい対処がなされることを期待したいと思います。

《事務局からのお願い》

会員名簿を更新する時期になりました。記載事項に変更のある方は、3月31日までに、下記の4つのいずれかの方法で変更内容をお届けください。

- 1) Mail : afjn_info@kcn.jp
- 2) FAX : 0742-62-1741
- 3) TEL : 0743-74-0371
- 4) 郵送 : 〒630-8691 奈良中央郵便局

郵便私書箱第30号 奈良日仏協会
※会員メーリングリスト（ML：連絡用の一斉送信リスト）も最新の状態に修正します。

（会員名簿に掲載されたメールアドレスをそのままMLに登録します。会員名簿への掲載はせずにMLのみに登録することも可能です。その場合「MLにのみ登録」とお知らせください）

懇親会

ミニコンサート、歓談、詩の朗読、多彩な参加者の言葉



総会後の懇親会では、アトラクションとして珍しい器楽演奏が行なわれ、列席者のサプライズを呼びました。清水よしえさんの「アイリッシュハーブ」、木南祐子さんの「ハンマー・ダルシマー」(ハーブシコードの内部を取り出したような弦楽器)の演奏です。軽快で流れるような旋律に、声楽家でもある清水さんの美声も加わって、会場全体がやさしい雰囲気にみたまされました。

野島副会長と中辻理事の司会進行のもと、三野会長のご挨拶、ジャメ副会長の乾杯のご発声に続いて、菜宴の美味しい料理と飲み物をいただきながら、参加者同士のにぎやかなおしゃべりに華が咲きました。宴もたけなわになった頃、ジャメ副会長によるアポリネールの詩「ミラボー橋」(Le Pont Mirabeau)の朗読がありました。すると、懇談でざわついていた会場がしんと静まりかえり、明瞭で穏やかな調子の中に力強さを含んだ味わいのあるフランス詩の響きが、会場に余韻をもたらしました。シャンソン歌手でもある司会の中辻理事が、シャンソン「ミラボー橋」(レオ・フェレ作曲)の一節をアカペラで披露されると、味わいがいっそう深まりました。新入会員はじめ、多彩な参加者のみなさんの自己紹介や自己アピールがあり、会員同士の顔と名前を知る機会となりました。な

らまち在住のピエール・レニエさんがゲスト参加。「私はフランス人ですが、風邪気味で今日はこのようにマスクをしており、日本人みたいになっています」との言葉が、会場の笑いを誘いました。さいごに懇親会の参加者全員に、南城理事から奈良県立美術館のペア招待チケットのプレゼントがあり、おひらきとなりました。35人(会員29、一般5、招待1)の参加者の皆さまのおかげで、とても楽しいひと時になりました。どうもありがとうございました。

法人会員のお店の紹介

菜宴(さいえん)

住所 奈良県奈良市小西町19 マリアテラスビル2F Tel. 0742-26-0835 不定休

営業時間 昼11:00~15:00 (14:30 LO) 夜17:00~22:30 (21:30 LO)

*野菜を中心とした食事は、昼も夜もカラダがよこびます。当店では野菜1日350g摂取を目標に、こだわりの野菜料理(パニャ・カウダ、玉ねぎのローストサラダ仕立て、里芋のチリソース、出汁巻きオムレツほうれん草、etc.)を各種ご用意しております。また、出張パーティー(20名様~150名様まで対応可能)も承っております。フレンチスタイルのコース料理から大皿料理・ビュッフェ料理、お客様のお好みに合わせ、ご自宅はもちろんホール・会議室・教会・キャンプ場、ご指定の場所にお伺いたします。お店では、料理・ドリンクともリーズナブルな価格でご提供しておりますので、会員の皆様、気軽に当店にお立ちよりください。本年もよろしくお願い致します。



菜宴こだわりのケータリング料理

BISTROT LE NORD (ビストロ ルノール)

住所 生駒市松美台33-2 ランドヒルパートIV Tel. 0743-75-9555 定休日水曜日

営業時間 ランチ11:00~15:00 (14:00 LO) ディナー18:00~21:00 (20:00 LO)

*自家菜園や契約農家さんのお野菜、大和牛やばく豚など素材にこだわったビストロ・フランス料理を提供しています。チーズやフランス産ワインも豊富に取りそろえています。今月発売の奈良の大人の情報誌「naranto [ナラント]」に当店のことが紹介されています、ぜひご覧になってください。昨年行われたコンテチーズプロモーションでは、多様なコンテチーズを使ったメニューを提供し、奈良日仏協会の会員の皆様への声かけや、Mon Nara 誌への記事掲載が評価され、チーズプロフェッショナル協会とコンテチーズ生産者協会の審査の結果、「特別賞」を受賞することができました。昨年はフランスアラカルトを当店で開催していただき、会員同士の交流の機会をもつことができました。本年もよろしくお願い致します。



ビストロルノール特製「フリカッセ」(fricassée):子牛などの肉をホワイトソースで煮込んだシチュー

フランス文学の庭から <37>

三野博司 (会長)

名句の花束

Mais tu t'apercevrais que je reste pareil.

だが、わたしは、一向に変わりはない。(2)
 (ロスタン『シラノ・ド・ベルジュラック』1897年)



パリで人と会うときによく使うカフェのひとつが、リュクサンブール公園横にある緑色の建物が気に入っているカフェ・ル・ロスタンです。エドモン・ロスタン広場の6番地にあり、カフェの名前はおそらく広場にちなんだものと思われそうですが、その広場は、人名を持つ他のフランスの通りや広場と同じく劇作家とのゆかりはなさそうです。ロスタンは1868年マルセイユに生まれ、1918年パリで亡くなりました。29歳のときの『シラノ・ド・ベルジュラック』が大当たりして、この作品はその後も世界中で上演され続けています。

剣の達人にして希代の詩人であるシラノには、大きすぎる鼻という弱点がありました。従妹のロクサーヌにかなわぬ恋情を抱きますが、彼女の心は美男のクリスチャンへと向けられます。ところが、クリスチャンにはシラノのような文才はまったくなく、気の利いた台詞ひとつ言えないのです。クリスチャンは「ああ、優美な言葉が語れたなら!」と嘆き、シラノは「颯爽たる美青年の士官であったなら!」とため息をつきます。そこでシラノの「華やかな弁舌」とクリスチャンの「心惑わす美しい肉体」の協力が成り立ち、二人は「恋物語の主人公」になろうとします。

とはいえ、これは対等の協力ではありません。得をするのは美男のクリスチャンのほうであり、シラノは黒子に徹するだけです。第3幕では、『ロミオとジュリエット』ばりのバルコニーの場面において、ロクサーヌにクリスチャンが相対面し、他方でシラノは暗闇に隠れて、心をとろかす恋の口舌を放ち続けます。その麗句にロクサーヌはすっかり酔いしれて、クリスチャンに口づけを与えることになるのです。第4幕では、シラノとクリスチャンが戦場に駆り出されますが、シラノは友人に成り代わって何通もの恋文を認めてロクサーヌに送りどけます。その文面にあらわれた心情に惹かれて、ロクサーヌは戦場に駆けつけてきますが、彼女の目の前でクリスチャンが戦死します。

こうなると、ロクサーヌはいったい何に恋したのか、という疑問がわいてきます。それはひとえに<ことば>なのです。クリスチャンが美男であったことも彼女のこころを動かしたかもしれませんが、それ以上に彼女はシラノによって紡ぎ出された華麗な文句に感動します。レトリックの勝利といえます。いかにもことばの国フランスらしい恋愛劇です。とはいえその文彩の奥にはシラノの秘められた真情が潜んでおり、それが<ことば>に力を与えるのです。

それから14年後、第5幕、ここからがしみじみと情感深い場面です。修道院において、ロクサーヌは自分の心を魅了した手紙の主が実はシラノであったことを知り、闇討ちに遭って瀕死の状態にある彼に向かって言います。

「愛しております、生きていてくださいまし! Je vous aime, vivez !」

初めての愛の告白、しかしシラノはこう答えるのです。

「いけない、いけない! お伽噺の中の話だ、<愛しています>の言葉を聞いて、自分の顔を恥じてきた王子の醜さが——輝く日の光だ! この言葉でたちまちに、消えてなくなる……だが、わたしは、一向に変わりはない。Mais tu t'apercevrais que je reste pareil.」(渡辺守章訳)

お伽噺とはもちろん『美女と野獣』のことです。シラノは、王子とは違って一向に変わりはありません。しかし、死を前にして、彼は醜い姿のまま、長いあいだ恋い慕っていた女性の愛を勝ち得ることになります。

「在京都フランス総領事館新年会」に出席して

野島 正興（副会長）

去る 1 月 14 日（水）、在京都フランス総領事館で開かれた「新春年賀レセプション」に三野博司会長の代理として出席しました。この日は、フランスの週刊新聞シャルリー・エブドが襲撃を受け 17 人が死亡したテロ事件から一週間。京都に向かう電車では、その後のフランスと国際社会の動きを伝える新聞を手にしての道行でした。会場にはレセプション開始予定の正午より少し前に到着。総領事館の外観はいつもと変わらない様子でしたが、ドアを開けると背広の胸に「JE SUIS CHARLIE」と記された黒い札を付けた方もいて、報道にあったような、ある種の臨場感が漂いました。



定刻までに 70～80 人の招待客が到着。挨拶に立ったシャルランリ・ブロソー総領事は、初めに今回のテロ事件についてフランス語で所見を述べました。その主旨は次の三点です。（通訳・北川秘書）

- ・今回の事件は全てのフランス人にとって心が痛むことである。
- ・表現の自由はフランス人にとって非常に重要である。
- ・全世界で追悼が行われ京都・日本でも追悼式が行われたことに感謝したい。

このあと、総領事は「フランス式の新年会は主催者一人が挨拶することになっています。すみません、今日はお客のお話はありません。」と、場面転換し、時に日本語を交え、和やかな雰囲気でお話しになりました。その要点は以下の通りです。

- ・去年は日仏交流 90 年だった。「ヴィラ九条山」がリニューアルオープンしたことで、フランスの外務大臣は訪日の第一に京都を訪問し、そのあと東京へ向かった。
- ・今年、2015 年は京都フランス音楽アカデミーが運営開始から 25 周年となる。これに関連し、京都とパリの文化交流計画をいくつか紹介する。（詳細省略）
- ・12 月にはパリで 21 回目の地球温暖化防止国際会議が開かれるが、第 1 回の会議はパリで開かれたことを申し述べておく。
- ・私は文化交流発展が最重要と考えている。皆さまと親交を深めるべく良い企画を考えたい。

ブロソー総領事挨拶のあと、新年の祝いは出席者全員がシャンパンを手にし、フランス語で「ソンテ！」と声を合わせ、レセプションは進行されました。



ヴィラ九条山メルリオ館長と私

会場では、フランスパンの大御所フィリップ・ビゴさん、ヴィラ九条山のクリスチャン・メルリオ館長、指揮者佐渡裕の助手を務めた音楽家の奥様、マルグリット・パジェさん、リッツ・カールトンホテルのパーティエ、ドゥマネ・レジスさんらと野島風仏蘭西語で歓談。他に京都、大阪の国際関係部局長と懇談。11 枚の名刺が手元に残り、予定の 2 時間があっという間の新年会でした。

(2015 年 1 月 22 日 記)

《お知らせ》 このたび、三野博司先生訳のフランス人作家の本が出版されました。（右写真）

エリック・ファージュ 『みどりの国 滞在日記』三野博司訳 水声社 2500 円＋税

(Éric Faye, *Malgré Fukushima—Journal japonais*, Éditions José Corti, 2014)

いまや日本においても注目のフランス人作家、エリック・ファージュが著した 2012 年夏から秋の日本滞在日記が翻訳されました。同年 11 月 11 日、奈良女子大学において開催された奈良日仏協会主催講演会の記述も含まれています。訳者による著者への最新インタビューも収録。（編集部）



国境の向こうに

川邊 哲史 (かわべ てつふみ)

私は 2006 年 9 月から 2011 年 2 月までの 4 年 5 ヶ月にわたりフランス駐在を経験致しました。パリで 1 年半過ごした後、フランス南西部アキテーヌ地域圏ピレネーアトランティック県のオロロン・サント・マリー(Oloron-Sainte-Marie)という町に移りました。この町は県庁所在地ポー(Pau)から車で 40 分ほど離れており、スペインのカトリックの聖地サンティアゴ・デ・コンポステーラに向う巡礼道の途上にあります。殊に夏場は杖を持った巡礼者達が黙々と歩く姿を多く見かけました。因みに有名なカトリックの聖地、ルルド(Lourdes)の近くにも位置しています。



ルルドの泉

そのオロロンから国道 134 号線をスペイン方面に 30 分程走ると、国境に位置し三千米を超えるピレネーの山々が間近に迫ってきます。私が勤務しておりました会社は、このあたりアスプ溪谷(Vallée d'Aspe)と呼ばれる地域のアックス村(Accous)というところにありました。この山の中のに、フランス人と結婚した日本人女性がお一人住んでおられたことは大変な驚きでした。さらにスペイン方面に車で 30 分程走ると、ソンプート峠(Col-du-Somport)の真下あたりを貫く国境のトンネルが見えてきます。嘗てここにはオロロンからスペイン側のカンフラン(Confranc)を繋ぐ鉄道(旧ピレネー山脈西部線)がありました。現在は廃線となっていますが、昔の面影を残す線路や石造りの駅舎の跡を見る事ができました。



ピレネー山脈を背景にした私

トンネルに入る直前のフランス側には国境警備隊が常駐していましたがパスポートチェック等もなくそのままトンネルに入れました。中は対面通行で、反対車線のスペイン側からもトラックなど多くの車が来ており、活発な物流を見ました。トンネルを抜けた直後のスペイン側には、しばしば覆面をした警官が自動小銃を構えて通り過ぎる車を監視しており、一瞬緊張を感じました。また風景はフランス側とは対照的で、樹木は低く、山全体の緑が減り、赤茶けた土や露出した岩が多く見られるようになりました。太古の昔にアフリカ

大陸とヨーロッパ大陸がぶつかり地盤が隆起し、ピレネー山脈が形成されたと聞きましたが、嘗てスペインがアフリカ大陸の北端

であったことをあらためて感じさせる風景でした。

さて景色の変化を楽しみつつ、ハカ(Jaca)という町のスーパーマーケットを目指しますと、フランス側から私と同じように買出しに来ている人々を見かけました。スペインではガソリンやアルコール、タバコ等の嗜好品の税率が低く安く手に入り、フランスでは見かけない食品がありました。例えばうなぎの稚魚、蛸や貝類の缶詰など海鮮食品が豊富であり、独特なチョリソや現地のワインなどをよく買ったものでした。買い物後は市内散策を楽しみ、食事はしばしばタパスというスライスされたパンの上に魚貝類の揚げ物や肉類が乗った小皿料理を頂きました。タパスの店には日本の寿司屋を思わせる、カウンターとショーケースがあり、ケースの中にはパンの上に乗せる具材がずらりと並び、実物を見ることで言葉の問題もなくオーダーすることが出来ました。一方でアクシデントの際には言葉の問題に直面しました。スペイン側で車が故障して困った際には私と同じフランス側から来ていた親切な男性に助けをもらい、その後も親しくさせて頂きました。フランスにはパリとパリ以外の 2 つの文化があるといわれています。双方のフランス文化に触れ、国境を越えて日常的に異文化にも気軽に接することができた経験は私の人生の財産となりました。さらに今後企業人として、グローバルな事業展開を進めていく上で大きく役立つものと信じております。

Lettre de Pierre Silvestri depuis Paris (ピエール・シルヴェストリのパリ便り)



7 janvier 2015 vers midi, mon pouls s'accélère, ma vue se trouble, mon corps vacille... Alors que je veux consulter ma boîte de courriels avant de partir enseigner la langue française à mes étudiants étrangers, mes yeux se figent soudain sur un bandeau d'actualité. Il annonce le meurtre de onze personnes, dont huit membres de la rédaction de Charlie Hebdo, dans les locaux du journal satirique dans le onzième arrondissement de Paris. Les auteurs de cet acte terroriste éliminent également un gardien de la paix boulevard Richard-Lenoir en prenant la fuite. Le lendemain matin, un complice assassine une policière municipale dans une rue d'un autre quartier de la capitale. Le 9, il tue quatre personnes de confession juive dans une supérette casher située porte de Vincennes.

Les trois meurtriers ont opéré dans le cadre du terrorisme islamiste. Leurs attentats ont été revendiqués par Al-Qaïda dans la péninsule Arabique. Ces jours d'horreur résultent de trois fléaux : remise en cause de la liberté d'expression, détestation des forces de police et haine des Juifs.

29 janvier vers minuit, je commence à rédiger cette lettre. Que m'inspirent ces événements dramatiques ? D'abord que c'est la laïcité qui est particulièrement visée et que certains voudraient réduire à néant. En France, ce principe sépare pouvoir politique et organisations religieuses tout en garantissant la liberté de culte ainsi que la liberté de conscience. Par conséquent, aucune opinion n'est placée au-dessus des autres.



Enfin que l'Islam est souillé par ceux qui prétendent le défendre et qui le détournent dans un but politique visant à imposer une vision religieuse radicale du monde. Au-delà de tout ce qui a été dit et écrit ici ou là, je suis encore plus convaincu qu'il faut opposer l'amour de la vie à la fascination de la mort. Aucune cause ne peut justifier la barbarie. AUCUNE. VIVRE EST SACRÉ.

(抄訳) 2015 年 1 月 7 日正午近く、脈は速まり視界は混乱し体が揺れた…。フランス語学校に教えに出かける前にメールをチェックしようとする、突然、ニュースの見出しに目がくぎづけとなった。パリ 11 区の諷刺新聞社の支局で 11 人が殺害され、そのうち 8 人が「シャルリ・エブド」の編集員だった。このテロ行為の実行者は逃走中にリシャール・ノワールの閑静な通りで一人の巡査を殺した。その翌朝、一人の共犯者がパリの別の地区の路上で女性市警を暗殺。9 日には、ポルト・ド・ヴァンセンヌにあるユダヤ食品スーパーで、4 人のユダヤ人を殺す。3 人の殺人者はイスラム急進主義テロリズムの考え方に従って実行に及んだ。彼らのテロはアラビア半島のアルカイダによるものと主張された。これらの恐怖の日々は、表現の自由の制限、警察への嫌悪、ユダヤ人憎悪の 3 つのわざわいの種に起因する。

1 月 29 日の深夜にこの手紙を書き始めた。これらの劇的な事件は私にどんな感情を生じさせたのか？ まず、とりわけ批判にさらされ、ある種の人間たちが崩壊させようとしているのは、ライシテ（政教分離の原則）である。フランスでは、ライシテの原則は信仰の自由と考えの自由を保障しつつも、政治権力と宗教組織を別個のものとする。それゆえ、いかなる見解も他の見解に対して上位におかれることはない。結果的に、それを守ると主張しながら、急進的な宗教観を押しつけることを狙いとする政治目的へと逸脱させる者たちによって、イスラム教は汚されたことになる。これまであちこちで述べられたり書かれてきたことは別にして、私自身が以前よりもいっそう確信するのは、命を愛することを、死への幻惑に対立させるべきということ。いかなる大義も残虐行為を正当化することはできない。「いかなる大義であっても。なぜなら、生きることは神聖なことだから」

第 123 回フランス・アラカルト報告

1 月 22 日午後、奈良女子大学近くの喫茶店カフェ・ルーチェにて「フランスと能との関わり」をテーマにアラカルトが開催されました。会員 14 名一般 10 名が参加。会員の小寺順子さんの紹介により石原昌和さん（金春流能楽師）をゲストにお招きし、石原さんのご紹介で齊藤信隆さん（観世流能楽師）が特別参加してくださいました。お二人のお話に続いて、会長の三野先生からは「フランス人作家の見た能舞台」のお話がありました。（編集部）

★ 石原先生と、私自身も日頃から親交のある宇陀市在住の齊藤先生が、ご懇意な間柄だったとは知りませんでした。うまくペアになってお話ししてくださって、とても良かったです。日本文化のルーツのようなお能について、何もわかってない自分がわかりました。面をつけるという滅多にない体験もさせて頂き、楽しかったです。お二人の先生には、参加者の方たちから様々な質疑が寄せられ、そのお答えも面白かったです。（藤村久美子）



「小面」の能面をつけた藤村さん

★ 石原先生のお話によって、能について何の知識もなかった私が、日本古来から伝わる能を世界中に広めていく活動の様子、各国の人々のうける反応についてのさまざまなエピソードを伺い、感動いたしました。世界中の人々が言葉はわからないけど身体の動きで理解しようとしていること、能は言葉をとらえるのではなく音楽だと思って理解してもらいたいという言葉は、私たち現代を生きる日本人にとっても、有効なメッセージであると感じました。能だけでなく日本の芸術・文化である日本画・お茶・お花に至るまですべて「間」を大事にしているという共通点が、日本人の美德であることも誇りに思えました。これからは、積極的に能を観に行く機会をつくりたいと思います。尚、このアラカルトに狂言を習っている従兄が堺から参加して、メモをとりながら先生のお話に熱心に耳を傾けてくれたので、その要点を以下に紹介させていただきます。「フランス人記者からの《なぜ面をつける？ なぜゆっくり歩くのか？ 柱が 4 本あるのは邪魔ではないか？》という質問に対する答えとして、お二人の先生が協力して参加者の一人に実際に面をつけながら、視野が狭く限られた範囲しか見えていないので、ゆっくり動かないと舞台から落ちる危険がある、4 本の柱で演者は位置を確認している、との解説をされました。他にも、《心の目で見て》と説明するとフランスの記者は納得する、フランス人は意味がわからなくても見てくれるがドイツ人は納得しないと見てくれない、ロシア連邦サハ共和国の人々は夜演劇をみて暮らしているので目が肥えている、能面が演者のわずかな頭の角度で喜怒哀楽が表現されるようにつくられている、《能という漢字に足（レンガ）をつけると熊になる》など、様々な説明やお話がとても面白かったです」（古森和江）

★ 狭い空間にお二人の先生を中心にみんなが集い、お話に耳を傾けて「ひとつ」になりました。とても楽しい時間でした。「歴史（ストーリー）がある。そして歴史のどの部分を物語にするかは国によって異なる」という各国の嗜好性の部分は、私にはすごく新鮮で、もっとお聞きしたかったです。「*Le drame, c'est quelque chose qui arrive, le nô, c'est quelqu'un qui arrive.*」 「劇、それは何事かの到来であり、能、それは何者かの到来である（ポール・クロードル、内藤高訳）」。三野先生に教えていただいたこの言葉は、このアラカルトの記念に覚えたいとおもいます。本当に素晴らしい時間をありがとうございました。一緒に参加してくれた友人もとても喜んでくれ、「あらためて日本の文化の素晴らしさ・質の高さを実感し、いろんな勉強のきっかけを与えて頂いたことに心から感謝申し上げます」との感想を寄せてくれました。（高島眞貴子）

奈良日仏協会シネクラブ 2015 年度前半の予定

昨年トリュフォー没後 30 年を機に 10 月の例会で「隣の女」を取りあげました。今年の前半は「フランソワ・トリュフォー」特集を継続し、以下の 3 作品を紹介する予定です。

- 1) 2 月 22 日「日曜日が待ち遠しい！」(1983 年): トリュフォー遺作
(13:30~ 奈良市西部公民館 5 階第 4 講座室にて、会員参加費無料、予約不要)
- 2) 4 月 26 日「大人は判ってくれない」(1959 年): トリュフォー最初の長篇映画
- 3) 6 月 28 日「緑色の部屋」(1978 年): トリュフォー自ら主演を演じた作品



4 月 26 日(日)の例会でとりあげる「大人は判ってくれない」は、フランス映画・ヌーヴェルヴァーグの代表的作品といった枠組みを超えて、世界中の映画ファンから愛され、多くの映画監督に影響を与えた映画史に残る名作です。主人公の 12 歳の少年アントワヌ・ドワネルは、親との折り合いが悪く、非行を繰り返し、家出し、あבקの果てには少年鑑別所に送られてしまいます。トリュフォー監督自身の自伝的要素がふんだんに盛り込まれ、ドワネル少年はトリュフォーの分身的な存在であることは、自他ともに認められているところです。当時 13 歳で少年の役を演じた俳優ジャン＝ピエール・レ  は、昨秋 70 歳で初来日し、同志社大学で舞台あいさつに立ちました。2011 年秋~2012 年春にかけて、当シネクラブで「子供」をテーマにしたフランス映画の特集を組んだとき、あえてこの作品をプログラムからはずしたのは、「子供」の主題にはおさまりきらない射程の深さと広がりをもつ作品であるために、別の紹介の機会を待っていたということがあります。誰もが生きていく上で、どこかで必ず通過していく少年の「真実」の感情の経験が、21 世紀の今もおこの映画を見る人の心の琴線にふれてきます。物語の主筋に沿って、次々と映し出される細部の映像の描写がまた素晴らしく、何度見てもその度に新しい発見と感触が得られることも、この映画の魅力です。(浅井直子)

《トリュフォーと「シネクラブ」の活動》 フランス語の cin  club は 1920 年頃にできた新しい言葉で、映画の上映やそれに関連する講演会・討論会の開催を通じて、映画に対する理解を深めることを目的とした集まりのことを云います。第二次大戦後の 1947~8 年頃のパリにおいてとりわけ盛んに行なわれ、当時 15~6 歳のトリュフォーは、複数のシネクラブに顔を出して多くの仲間を作り、自分自身でもシネクラブを作りました。彼の映画作りの原点にはシネクラブでの自由で活発な討論があるようです。トリュフォーが 16 歳の時に、18 歳のゴダールと知り合ったのも、そうしたシネクラブでのことでした。

《ゴダールの新作公開中》 トリュフォーと並ぶヌーヴェルヴァーグを代表する監督、つねに既成の映画のあり方を挑発する映画作りを実践してきたジャン＝リュック・ゴダール監督は、今年 12 月で 85 歳となります。2015 年 1 月 31 日から全国各地で、最新作「さらば、愛のことばよ」(Adieu au Langage, 2014 年, 69 分) が公開。2014 年のカンヌ国際映画祭では審査員賞受賞。ゴダール作品独特の映像と音声のコラージュの手法にますます磨きがかかり、初めて 3D にも挑戦しています。

Recette du « Tuiles » 今回は薄いクッキーのような焼き菓子「チュイール」の簡単な作り方を、会員の向井佳代子さんが紹介してくれました。「tuile」はフランス語で「瓦」という意味、お菓子の名前はその形に由来するようです。(編集部)

Ingr  dients pour environ 18 tuiles (材料 約 18 枚分) : 30g. de beurre, 30g. de sucre, 30g. de blanc d'  uf, 30g. de farine, 40g. d'amandes effil  es grill  es. (バター 30g、砂糖 30g、卵白 30g、薄力粉 30g、アーモンドスライス(ロースト) 40g)

- ① Incorporer le sucre au beurre ramol   et ajouter petit    petit le blanc d'  uf.
バターをクリーム状にして砂糖を加えすり合せ、卵白を少しづつ加える。
- ② L'ajouter en m  langeant, l'un apr  s l'autre, la farine tamis  e et les amandes grill  es et   cras  es.
ふるった薄力粉とローストして砕いたアーモンドスライスを順に混ぜ合わせる。
- ③ Laisser reposer la p  te trente minutes. 生地を 30 分休ませる。
- ④   taler finement la p  te en ronds de 5cm de diam  tre, et cuire 7    8 minutes au four (170  C).
休ませた生地を直径約 5 cm の円に薄く伸ばし、オーブン(170  C)で約 7~8 分間焼成する。
- ⑤ Juste apr  s la cuisson, arrondir chaque biscuit pour lui donner la forme d'une tuile.
焼き上げたらすぐに、1 枚づつ瓦の形のように生地をカーブさせる。

生駒からトゥールーズへ

河合 壯（かわい つよし）

昨年の 9 月より入会させていただきました。生駒市の奈良先端科学技術大学院大学にて化学の研究を行っている関係で、フランスには毎年訪問しています。このたび、奈良先端科学技術大学院大学がフランス南部のトゥールーズに国際共同研究室を設置することになり、私が担当教授として運営にあたることになりました。生駒との掛け持ちですので、実際に向うに滞在できるのは年間に 2～3 週間程度なのですが、トゥールーズの先生方や学生の皆さんと一緒に研究ができることは大きな喜びです。また毎年 3 か月程度の短期間ですが大学院生をお迎えして、奈良先端科学技術大学院大学での研究に参加してもらっています。研究では光を当てると色が変わる分子の研究を行っています。基礎的な研究ですが、いつか皆様のお役に立てることに繋がればと祈念しております。



昨今では、大学の様々な活動においてグローバル化が求められています。これは国際競争に勝ち残るためのいわゆるグローバリズムといった意味ではなく、文化や歴史を含めた理解を深め、人と人のお付き合いを成熟させてゆくことを意味すると解釈しております。フランスの皆さんとのお付き合いは、研究の質を高め、さらには大学から輩出される人材の質を高めることに繋がりたいと期待しております。

トゥールーズはローマ帝国時代にさかのぼる長い歴史に培われた街で、最近では 2 階建て旅客機 A380 の製造で大いに活気づいています。おいしいワインやチーズの専門店はもちろんのこと、前回訪問した際には格別のチョコレート工房を見つけました。これからも研究の合間の街歩きを楽しみにしながら、トゥールーズに通いたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

パリでの音楽修行時代

金谷 幸三（かなたに こうぞう）



このたびご縁があって入会させていただきました。奈良をホームグラウンドにして、クラシック・ギタリストとして音楽活動をしています。今から 30 年ほど前、高校を卒業した年に、日本を飛び出しフランスへ音楽の勉強に向かいました。初めての海外、もちろん飛行機に乗るのも初めて、文化教室で半年ほどフランス語の文法を学んだ程度の語学力でよくひとりで行ったものだ、今ではとても怖くてできません。「Où est la station de Taxi ?」初めて実践でしゃべった記念すべき言葉。ドゴール空港でボーダーに聞いたものの早口でほとんど聞き取れなかったことを思い出します。

住む部屋が見つかるまでのホテル住まい、そこから通った語学学校時代。今ならネットを使って日本に居ながら万全の準備で留学されるのですが、当時は小澤征爾著『ボクの音楽武者修行』ばりの「行き当たりばったり」。その生活は今の若い人には想像もできないようなスリリングさが伴っていました。極貧ながらもそれでも毎日楽しく刺激的に過ごしていったのは若さゆえ、しかしパリの文化的土壌がそうさせてくれたのでしょう。

1989 年に帰国するまで 5 年の留学生活のうち最初は 19 区 *crimée* の狭いステュディオ、その後はパリ郊外 *Maison d'Alfort* に住み、そこから音楽学校に通っていました。その学校もすでに移転、住んでいた家も区画整理で住所ごと無くなっていますが。2 年前に 17 年ぶりにパリへ遊びに行きました。街並みは相変わらず美しく、活気にあふれ行き交う人々も変わらない。しかし、思っていたほど懐かしさがこみ上げてきませんでした。それは 18 歳から 23 歳という多感な時期に体験した 20 世紀のフランス、あの頃の街の臭いが消えていたから。当時の食べ物の臭いとタバコと排気ガスがブレンドされた空気。さすがにこればかりは仕方ないのかもしれないかもしれませんね。いつかまた学生時代の友人とフランス語で思い出話ができるように頑張って語彙を増やしたいと思っています。

NHK「ラジオ講座」に再挑戦

向井 佳代子（むかい かよこ）

4年前仕事を辞めた時に、フランス文化の薫りに憧れていた私は、食文化の研鑽や映画・美術鑑賞に役に立てばいいなと思い、若い頃ほんの少しかじったフランス語を勉強しなおそうと心に決めました。

さっそく「テレビでフランス語」のテキストを購入し、張り切ってスタートしたのですが、テレビ放映開始時間が夜間の10時25分と随分遅く、夜に弱い私は睡魔に襲われて、残念ながら挫折してしまいました。そこで、昨年10月から朝学習に切り替えて「ラジオ講座まいにちフランス語」に再挑戦しています。毎朝リビングの食卓にラジオを置いて、その日の自分のスケジュールに合わせながらの7時30分開始の15分間の学習が、毎日の私の生活の始まりになっています。

月曜日から水曜日の初級編では基礎力の反復練習に励んでいます。その中の“覚えよう一言”“教えて MADAME”のコーナーは、フランスと日本の言葉や文化の違いがよくわかりとても興味深いです。木曜日と金曜日放送の応用編は私にはレベルが高いのですが、めげないで頑張っています。毎日聞いてもすぐに忘れてしまう事の繰り返しですが、この15分間の積み重ねが、次回のフランスの旅で“使える一言”のプラスに必ず繋がると信じて、これからも「ラジオ講座」を聞き続けたいと思います。



2015 年度新講座の紹介

①月曜夜 19:00～20:30 はじめてフランス語を習う方のためのクラス 【4月13日から開講】

☆講師：オリヴィエ・ジャメ ☆場所：スミス外国語アカデミー（近鉄奈良駅すぐ）
☆教科書："Spirale" ☆連絡先：次頁の講座表参照

②水曜午前 10:30～12:00 はじめてフランス語を習う方のためのクラス 【4月15日から開講】

☆講師：オリヴィエ・ジャメ ☆場所：奈良フランス語クラブ（奈良市藤原町）
☆教科書："Spirale" ☆連絡先：次頁の講座表参照

③毎月第3土曜 11:00～13:00 「ジャメ先生と漱石の『書簡』を読む」 【5月16日から開講】

☆講師：オリヴィエ・ジャメ、浅井直子 ☆場所：奈良フランス語クラブ（奈良市藤原町）

☆教材：毎回プリント配布、岩波文庫『漱石書簡集』 ☆受講料：各回2,000円 ☆連絡先：講座表参照
2012年からスタートした文化講座「夏目漱石を日仏二カ国語で読む」では、『吾輩は猫である』（2012）『眞実草』（2013）『日記』（2014）に続いて、4年目の今年は『書簡』を取りあげます。親友の正岡子規はじめ個性豊かな門下生たちに宛てて書いた漱石の手紙を読んでいると、終生、他人に対する敬意を失することなく人を愛した、漱石自身の「こころ」のあり方に惹かれずにはられません。私たちは日本人的と感じるのに、ジャメ先生にはフランス人的だと感じられる、漱石の潜在的な魅力とは？ 他人に直に働きかける言葉からなる手紙の読解を通じて、作家漱石の隠れた魅力に接近できればと思います。

第1回 5月：「この頃は浮世がいやになり」	… 正岡子規宛て（明治23年8月9日）	漱石 23歳
第2回 6月：「学問はコスモポリタンなものに」	… 寺田寅彦宛て（明治34年9月12日）	34歳
第3回 7月：「死ぬまで進歩するつもり」	… 森田草平宛て（明治39年2月15日）	39歳
第4回 10月：「文芸欄を廃止する」	… 小宮豊隆宛て（明治44年10月25日）	44歳
第5回 11月：「生涯に描きたい絵」	… 津田清風宛て（大正2年12月8日）	46歳
第6回 1月：「牛になって人間を押せ」	… 芥川龍之介・久米正雄宛て（大正5年8月24日）	49歳

会員主催の各種講座案内

曜	時 間 帯	場 所	講 師	内 容、教科書	問 合 せ 先
月	19:00～20:30 (NEW !) (4月13日から)	スミス外国語 アカデミー (近鉄奈良駅すぐ)	オリヴィエ・ジャメ	フランス語初級、教科書 "Spirale" (はじめてフランス語を習う方対象)	Clubfrancenara @kcen.jp or1064@yahoo.co.jp 0742-62-2770 (ジャメ)
火	12:30～14:00	奈良フランス クラブ (奈良市藤 原町)	オリヴィエ・ジャメ	Conversation, expression, écrit et écoute / DAPF / Delf A2 仏検 "Echo 1" CLE International "A la page 2011" Edition Asahi	Clubfrancenara @kcen.jp 0742-62-2770 (ジャメ)
水	10:30～12:00 (NEW !) (4月15日から)	同上	オリヴィエ・ジャメ	フランス語初級、教科書 "Spirale" (はじめてフランス語を習う方対象)	同上
水	12:30～14:00	同上	オリヴィエ・ジャメ	Echo B1 (CLE International) / Vidéo Cours préparation DAPF-DELF	同上
木	12:30～14:00	同上	オリヴィエ・ジャメ	"Echo 2" CLE International / DAPF-DELF	同上
木	19:00～20:30	同上	オリヴィエ・ジャメ	フランス語 Communication 2 中級 "Echo 1" CLE International	同上
金	10:50～12:50	同上	オリヴィエ・ジャメ	フランス語 Communication 3 中級 DAPF-DELF 会話、作文、ヒアリング、聞き取り、 書き取り、仏検読書 "Echo 1" CLE International	同上
土	毎月 2 回 13:30～15:30 (2/ 28...)	同上	オリヴィエ・ジャメ	Interprétation-Traduction 通訳翻訳講座 (Introduction aux techniques d'interprétation et de traduction)	同上
土	毎月 1 回 (NEW !) 11:00～13:00 (5/16, 6/20, ...)	同上	オリヴィエ・ジャメ 浅井直子	「ジャメ先生と漱石の『書簡』を読む」 日仏 2 カ国語による比較文学・比較文化・フ ランス語翻訳の講座	同上 0743-74-0371 (浅井)
日	2 ヶ月に1回 (2/15...) 14:00～17:00	同上	オリヴィエ・ジャメ	フランス歌曲について	Clubfrancenara @kcen.jp 0742-62-2770 (ジャメ)
日	毎月 2 回 10:30～12:30 (2/8, 22; 3/1, 29...)	同上	オリヴィエ・ジャメ	会話、作文、ヒアリング、聞き取り、書き取り、仏 検読書/DELF"	同上
日	毎月 1 回 14:00～16:00 (2/21, 3/29...)	スミス外国語 アカデミー (近鉄奈良駅すぐ)	オリヴィエ・ジャメ	Séance de lecture et de discussion (Articles du Nouvel-Observateur...) 読書・討論会 (仏検、DELF/DALF)	同上 0742-26-7770 or1064@yahoo.co.jp
火	毎月第 2 火曜日 13:30～15:00	京橋 studio-J	梨里香	フランス語で歌うシャンソン	studioj-nktj @occn.zaq.ne.jp 06-6922-6502 (中辻)
木	毎月 2 回 木曜 18:30～20:00	京橋 studio-J	中辻純子	やさしいレクチャー 中級以上の方対象 簡単な短編やニュースを講読します	同上
金	毎月 2 回 金曜 10:30～12:00	京橋 studio-J	中辻純子	やさしいフランス語① 日常会話からフランス語 の基礎と文法を学びます	同上
金	毎月 2 回 金曜 13:30～15:00	京橋 studio-J	中辻純子	やさしいフランス語② 日常会話からフランス語 の基礎と文法を学びます (はじめてフランス語を習う方対象)	同上
水	毎月第 2・4 水曜 9:20～11:20 (4月から変更)	学園前 西部公民館	仲井秀昭	「BON MOMENT (素敵な時間)」 まずは「ボンジュール」と「ジュテーム」から。フ ランス語がはじめての方もすでに習っている方も 歓迎！ 詩を読んだり料理のレシピを見たり映 画を見たりいろんな文化についても語ります。	bonjourmara@gmail.com 070-5504-1881 (仲井)

《2014 年度第 6 回理事会報告》

……事務局

日時：2015 年 1 月 15 日（木）、15:00～17:30、場所：菜宴
出席者：三野、ジャメ、野島、濱、樋口、浅井、井田、仲井、中浦、藤村、久保田（HP 管理者）

議題 1. 前回理事会以降の活動を振り返る

1) フランス・アラカルト：11 月 23 日（日）第 6 回 サン・ヴァンサンにて（Mon Nara No.266 で報告済）。2) 1 月 14 日（水）在京都フランス総領事館新年祝賀レセプション、総領事の挨拶で Charlie Hebdo 社襲撃事件が触れられた。

議題 2. 当面の行事・活動計画

1) フランス・アラカルト：1 月 22 日（木）第 7 回 カフェ・ルーチェにて、3 月 31 日（火）2015 年度第 1 回 松伯美術館にて、案内チラシ確認。2) HP の不具合是正：当協会のホームページが不安定な状況にあり、HP 管理者の手に負えない。専門家には是正を依頼（承認）。

議題 3. フランス・アラカルト運営規則

新しい方式で実施してきたフランス・アラカルトの反省を踏まえ、新たな運営規則が提案され承認された。①担当者：理事会の監督・指導のもと理事または一般会員が企画・実施、②補助金等：協会からの補助金、実施回数の調整など、③会計：アラカルト会計の報告と監査、余剰金の扱い、謝金と会費の水準など。併せてフランス・アラカルト実施企画書の様式も承認された。この規則の本文と記入様式が必要な会員は、事務局へ請求してください。

議題 4. 年次総会の案内・議案

以下の資料に基づき討議し、一部修正ののち承認された。決算・予算は精査のうえ再度照会する。1) 総会・懇親会案内、2) 総会議事次第、3) 2014 年度活動報告、4) 2014 年度決算報告、5) 2015 年度役員候補、6) 2015 年度活動計画、7) 2015 年度予算、8) 懇親会の実施計画

議題 5. Mon Nara

次号は総会記事のため 2 月 18 日発行の予定。4 月から始まるフランス語講座について説明。講座表について主催者と Mon Nara 編集担当の連絡を厳格化（承認）。

第 124 回 フランス・アラカルトのご案内

❖ 日時：3 月 31 日（火）10:30～15:00

（受付開始 10:00 終了予定 15:00）

❖ 会場：松伯美術館・旧佐伯邸（奈良市登美ヶ丘 2-1-4）近鉄学園前駅から徒歩で 5 分、大洲橋下車 ❖ 会費：会員 1800 円、一般 2300 円

（美術館入館鑑賞料、お茶会代を含む）

❖ 内容：①お茶会（伯泉亭）

- 参加者は 10:15～11:45 の間に越してください。

②ストーリーテラーの長嶺知永子さんのお話で「サン・フェアリー・アン」③いいだむつみさんのフランス・シターの演奏 ❖ 軽装でお越しください ❖ 昼食・飲み物：各自持参 ❖ 申込み & 問い合わせ：mail: bonjournara@gmail.com tel: 080-1440-2841 fax: 0742-62-1741

会員通信

★「今春、中学校の美術教師を定年退職します。7 月 22 日～26 日に、《赤木睦代 38 年の軌跡》と題して、京都文化博物館にて個展を開催することになりました。現在その準備に取りかかっています」（赤木睦代）

★「シャンソン歌手中津洋子さんは、以前、私の訳で上演したギョ・フォワシの『王様盛衰記』で唄とピアノを担当されて以来の知り合いでした。Mon Nara 先号で、若くして亡くなられたことを知り、驚いています。」（山本邦彦）



《2015 年度第 1 回（臨時）理事会報告》

……事務局

日時：2015 年 2 月 11 日（水）、17:30～18:00、場所：銀杏や
出席者：三野、ジャメ、野島、濱、南城、浅井、井田、高島、仲井、中辻、藤村

議題 1. フランス・アラカルト運営事務：事務担当者の承認、責任者の役割・5～7 月のアラカルトの申込方法・メール使用上の注意の確認

議題 2. Mon Nara 編集体制：編集方針の確認、今年度中に「Mon Nara 編集規則」作成、編集責任者・編集部の承認、その役割の確認

議題 3. 今年度会費の振込み：Mon Nara 本号に振り込み用紙を同封、ゆうちょ口座への振込みの確認

編集後記

☆このところ椿の花を見かけると、冬の寒い日に春の訪れを先取りして知らせてくれるようで心なごみます。日本ではすでに万葉集の時代に「川の上の つらつら椿 つらつらに見れども飽かず 巨勢の春野は」（巻 1-56 春日蔵首老）と、現在の奈良県御所市の椿が詠われていますが、欧州にもたらされたのは 18 世紀とのこと（フランス語は Camélia）。☆新しい年度が始まりました。今年も会報 Mon Nara を通じて、多士済済の会員の皆様の「フランス語」「フランス文化・芸術」「フランス的精神」「日仏交流」「留学・旅行」等に関する様々な情報や生きた経験を伝えていきたいと思います。（N.Asai）

◆当協会では会員を募集しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。

◆本誌への投稿、特に新鮮で多様な話題、ホットなフランス情報などを歓迎します。誌面の都合で意味を極力変えずに表現を変えさせていただくことがあります。会員通信欄もご活用ください。

締切日：次号は 3 月 31 日が原稿締切日です。

Mon Nara janvier - février 2015 1-2 月合併号 numéro 267

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP: http://www.afjn.jp E-mail: afjn_info@kcn.jp FAX 0742-62-1741

〒630-8691 奈良中央郵便局 郵便私書箱第 30 号 [郵便物のみ] ©発行責任者：三野博司